

2. 検討経緯

本資料に係る検討は、意見照会（グループ討議）の形式で生態学や土木計画学の学識者を交えて実施した。本章ではこの検討経過等を記す。

2.1 学識者を交えた検討

(1) 検討メンバー

道路事業の構想段階における自然環境配慮の充実に関する意見照会 学識者名簿 (敬称略)

(座長)

日置 佳之 鳥取大学農学部 教授

(以下、五十音順)

一ノ瀬 友博 慶應義塾大学環境情報学部 准教授（平成23年度）
同 教授（平成24年度）

栗原 正夫 国土交通省国土技術政策総合研究所
環境研究部緑化生態研究室 室長（平成24年度）

福本 潤也 東北大学大学院情報科学研究科 准教授

松江 正彦 国土交通省国土技術政策総合研究所
環境研究部緑化生態研究室 室長（平成23年度）

(事務局)

曾根 真理 国土交通省国土技術政策総合研究所
環境研究部道路環境研究室 室長（平成24年6月まで）

角湯 克典 国土交通省国土技術政策総合研究所
環境研究部道路環境研究室 室長（平成24年7月から）

井上 隆司 国土交通省国土技術政策総合研究所
環境研究部道路環境研究室 主任研究官

山本 裕一郎 国土交通省国土技術政策総合研究所
環境研究部道路環境研究室 研究官

(オブザーバー)

園田 陽一 国土交通省国土技術政策総合研究所
環境研究部緑化生態研究室 研究官（平成23年度）

上野 裕介 国土交通省国土技術政策総合研究所
環境研究部緑化生態研究室 研究官（平成24年度）

(2) 検討状況

平成23年度は、まず、これまでの道路事業における自然環境への配慮の取り組みをレビューの上、「配慮書段階の検討」に資する自然環境情報の整備動向と活用可能性・課題の整理を行った。それらの状況を踏まえて、配慮書段階における自然環境への配慮の方向性を整理した。

○第1回グループ討議（平成23年8月25日）

- ・趣旨説明
- ・これまでの道路事業の計画策定プロセスと自然環境への配慮状況について共有
- ・検討の進め方（自然環境情報の整備動向と活用可能性の整理案）について議論

○第2回グループ討議（平成23年11月7日）

- ・自然環境情報の整備動向と配慮書段階での活用可能性の整理状況の中間報告
- ・配慮書段階における自然環境への配慮の方向性について議論

○第3回グループ討議（平成24年2月6日）

- ・自然環境情報の整備動向と配慮書段階での活用可能性の整理結果の報告
- ・配慮書段階における自然環境への配慮の方向性を整理（中間とりまとめ）

平成24年度は、前年度に整理した方向性を踏まえて、配慮書段階における検討のあり方（配慮書段階で検討すべき事項、情報収集の考え方）に関する議論を深めると共に、効果的かつ効率的な調査、予測及び評価の手法について整理した。

○第4回グループ討議（平成24年6月6日）

- ・趣旨、検討内容の再確認
- ・配慮書段階で検討すべき事項と情報収集の考え方について再度議論

○第5回グループ討議（平成24年8月23日）

- ・配慮書段階における調査、予測及び評価の流れと考え方（素案）について議論
- ・既存資料等による生息・生育ポテンシャルの高い場所の抽出手法について議論

○第6回グループ討議（平成24年11月29日）

- ・配慮書段階において検討すべき事項と検討対象の考え方の整理（とりまとめ）
- ・配慮書段階における調査、予測及び評価の考え方と手法例の整理（とりまとめ）

○第1回グループ討議 議事要旨

- ・配慮書段階における検討は、E I Aの前倒しや調査範囲の拡大とするのではなく、自然的な自然環境情報を活用して、生息・生育ポテンシャルを評価する視点が必要である。
- ・E I Aでは猛禽類が重視される状況になっているが、今後はより幅広く、他の生物も含めた多様性の面からの検討が望まれる。
- ・本来は、自然環境に関する既存の情報インフラを基に検討できることが理想である。
- ・自然環境情報の整備において先進的な自治体等や専門家等の参画を得て、地域の自然環境の情報を収集できるとよい。
- ・配慮書段階における検討スケールは、1 / 25,000程度が適切と考えられる。

○第2回グループ討議 議事要旨

- ・レッドデータブック掲載種等の確認位置情報の収集は困難であることが想定される。
- ・検討対象は、希少性・学術性の観点だけではなく、「地域に親しまれている場所」、「自然環境の保全上の重要性が高い地域」等の観点からの抽出も必要と考えられる。
- ・構想段階P Iを含めた計画策定プロセスを想定して、シナリオによるリスク分析が有効ではないか。その中で、どのような情報が重要であるかが分かると考えられる。

○第3回グループ討議 議事要旨

- ・自治体の環境部局等へのヒアリング等による情報収集は、重要な自然環境の把握において有効であると期待される。
- ・「生物多様性地域戦略」、「環境基本計画」に位置付けられている環境は、配慮を検討すべき対象として参考になると考えられる。
- ・方向性として、確認位置情報とポテンシャルの両方から検討することが望ましい。

○第4回グループ討議 議事要旨

- ・自然環境情報は博物館や大学に集約されていくと考えられる。これらの情報の共有化が課題であり、現段階では構想段階P Iによる情報収集が期待される。
- ・リスクの一例として、事業の長期化による環境変化や周辺開発の誘発が挙げられる。

○第5回グループ討議 議事要旨

- ・情報収集（地域特性の把握）と検討対象の抽出（調査）を区別すべきである。
- ・レッドデータブックの掲載種から幅広く検討対象となる生物を抽出すると、重要なランクの生物の評価が相対的に下がってしまうので、注意が必要である。
- ・ポテンシャルが高い場所の抽出にあたっては、その考え方の解説が必要である。
- ・ポテンシャルマップの利用は、モデルの妥当性等の課題に注意する必要がある。
- ・配慮書段階の検討結果が概略設計に活用できることが重要である。

○第6回グループ討議 議事要旨

- ・「動物」「植物」と「生態系」の観点を網羅する形で検討を進めてきたが、法律上は別の選定事項であり、本検討のとりまとめにあたっては区別と表現の工夫が必要である。
- ・評価については、構造等の配慮も含めて、総合的に丁寧に記載することが望ましい。
- ・配慮書段階の検討とE I Aが一体の制度として柔軟に対応できるようにすべきである。
- ・本検討結果を運用した結果により、今後見直し等を行うこととして会議を終える。

2.2 地方整備局等への意見照会

本検討の過程では、検討途中の技術手法本文（P.1～15）の案及び本検討の中間とりまとめ（平成23年度に整理した方向性）に関して、地方整備局等に意見照会を行った。

その結果として寄せられた貴重な意見に対して、表2-1のように対応・反映を行った。なお、ここでは、技術手法本文の案に対する意見については、動物、植物及び生態系に関するもののみを抜粋して掲載している。また、紙面の都合上、原文の内容を損なわない範囲で文章を短縮しているものがある。

表 2-1 地方整備局等からの意見と対応・反映

該当箇所	意見	対応・反映
地域特性の把握	1.2 地域特性 2) 社会的状況の把握に記載されている(1)地域における計画・戦略・目標等の趣旨は何か。	これらには地域における環境についての関心事項が反映されており、参考になる情報があると考えられることから、収集すべき情報として加えたものです。
調査の手法	既存資料を基に調査・予測を行う手法を確立してほしい。 回避に資する生育位置の把握となると、現地概査に留まらず、EIAのような詳細な現地調査が必要になるのではないかと。広域的な現地調査は困難であり、広い意味の生息・生育環境の把握まででよいのではないかと。	地域特性の把握において、現地調査は既存資料の補足など、必要かつ適切な範囲にとどめる趣旨で記述しています。 また、ご指摘のように、生育位置よりも生育・生息環境のまとまりを場として把握する考え方が必要と考えており、その手法の整理を行っています。(→P.29 3.2【補足】の観点)
	事業者の負担増となるEIAの単なる前倒しは避けるべきであるが、既存資料の情報不足等による手戻りも避ける必要があり、必要に応じて現地調査を実施する場合など使い分けも必要ではないかと。	既存資料を補足するための現地概査を否定するものではなく、EIAとの観点の違い・役割分担に留意して必要に応じて検討すべきと考えています。
予測の手法 評価の手法	配慮書段階は事業計画の熟度が低いため、概略ルートには幅があり、そのスケールでは影響の有無の判定が容易ではない場合もある。その場合の考え方はどのようになるのか。	ご指摘のように、概略ルートの幅と実際の道路の幅は異なるため、検討対象の大きさや範囲を勘案して、影響の有無・程度を評価する必要があると考えます。 配慮書段階では広域的・大局的な観点で配慮を検討するものであり、この段階で影響の有無が判定できない環境影響は、EIAにおいて、より小さい検討スケールでの回避や低減、環境保全措置の実施を検討することになると考えます。
	評価における「整理」はどのような整理まで行うのか。ゼロオプション案を含めた場合、単一案の場合はどうにすべきか。	「整理」とは、複数案ごと・計画段階配慮事項ごとの評価を、一覧表等に記載するものです。ゼロオプション案がある場合も同様です。複数案間で優劣を付けたり、案を絞り込むものではありません。
計画段階配慮事項（選定事項）の考え方	参考資料の方向性（中間とりまとめ）は、「動物」「植物」について示されているが、「生態系」に関する配慮の考え方も示してほしい。 また、配慮方策（回避・低減）として考えられる案、例を示してほしい。	「生態系」も含むものとして検討を進めてきましたが、ご指摘のとおり「計画段階配慮事項」として独立した選定事項であることから、それぞれの観点を整理して記載します。 配慮方策（回避・低減）のイメージについても参考資料にて示すように検討します。